

11月11日～12月12日
電池月間



平成14年10月1日



社団 法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8

機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

振替口座 東京8-91022

発行人 木村侃丘

定価1部郵送による年決め2,400円

平成14年度 正賛合同会議開催

平成14年度正賛合同会議が9月13日 正会員17社、賛助会員40社、参加者96名の出席のもと、静岡県浜松市のグランドホテル浜松にて盛大に行われた。

会議では未だ先行き不透明な経済環境の中、電池業界の置かれている厳しい状況下、より一層の会員相互の協調が必要であることを確認した。

1.冒頭に電池工業会田中会長より挨拶があった。
○日本経済はバブル崩壊後、一向に構造的な問題を改善する糸口すら見つかっていない。一方、米国経済も低迷状況にあり、大変厳しい局面に立たされている。また、民間の企業活動も収縮し、生産の減少や設備投資の抑制、更にはデフレ傾向により一層進み、製品の価格低下により企業の収益に多大なマイナス影響をあたえている。

○電池業界の平成13年度出荷金額は7,106億円 前年比85%とかつてない厳しい結果に終わった。中でも電池全体の30%以上を占めるリチウムイオン電池が、前年比83%と統計を取って以来始めて前年を割り込んだ。4月～6月の実績は電池全体で、前年比100%とわずかながら回復の兆しを見せて いる。

○今後電池業界として、工業会の会員各社が海外へ生産シフトを加速させ、国内の空洞化は避けられない状況にあり、また海外より安価な各種電池が流入し国内の価格低下は当分続くと共に、電池



に対する更なる、小形、軽量、薄型、高容量化の追求と、厳しいコストの要求が一段とくつくなることが予想され、以前にも増して業界が切磋琢磨し合いながら、この様な要望に応え、業界発展に尽力をして参りたい。

2.木村専務理事から、平成14年度 電池工業会の活動方針が発表され、特に環境保全・再資源化、広報活動、国際交流について説明があった。

○環境保全、再資源化に関する活動

1)昨年4月1日施行された「資源の有効な利用の促進に関する法律」により、認定された、再資源事業者である、小形二次電池メーカー及び電池使用機器メーカーが共同して回収及び再資源化の実施を図る為に発足した「小形二次電池再資源化推進センター」は、本年で2年目を迎えることになった。当初87社の指定再資源化事業者(会員)で発足したセンターは、平成14年8月末現在、159社に増加している。

また、使用済み電池の排出拠点も、大口事業者の増加も含め順調に増加傾向で推移している。しかし肝心の回収目標量については、リチウムイオン電池が目標をオーバーしたものの、残念ながらニカド、ニッケル水素、小形シールは目標達成に到らず、全体としても昨年は上回ったものの、目標をクリアできなかった。再資源化率については、4品目とも目標をクリアし、初年度としては一定の成果を上げることが出来た。

本年度は、回収目標量達成のため、共同回収システム及び再資源化システムの更なる改善を加え、内容の充実と小形二次電池のリサイクルシステム全体の定着を目指すと共に、社会的認知の向上で3Rの実効性を高めて行きたい。具体的には次の5項目を重点課題として取り組んで行きたい。
①センター運営の定着、②収集運搬、再資源化の廃棄物処理法への対応、③回収、再資源化のコンピュータ管理システムの導入、④自治体との連携、⑤広報、啓発、情報提供。

2)自動車用鉛蓄電池については、使用済み自動車の再資源等に関する法律、即ち自動車リサイクル法が本年7月12日に公布され、今後政令等の規定を加えながら3段階方式で実施され、自動車用電池についても第2段階の準備期間を経て、第3段階での本格施行との運びになる計画である。1994年より自主回収、再資源化を独自に実施してきたが、新たなシステムでの回収、再資源化を行うべく、二次電池部会に特別プロジェクトチームを発足させ、経済産業省、公正取引委員会、環境省等との調整、また本スキームに関連する企業との勢力的な交渉、調整、リサイクルガイドラインに明記されている、フリーライダー対策等多方面な課題を取り組んでいる。

3)産業用鉛蓄電池のリサイクルについては、当該電池メーカー5社が9月末から10月にかけて自主回収及び再資源化に係わる認定申請を行い、同時に産業廃棄物の指定制度の申請も合わせて行

うことにしている。

4)一次電池の環境保全に関する活動は、1985年より福岡大学と共同で廃乾電池の埋め立て実験を実施している。15年前8基でスタートし、10年後の1995年に4基を解体、15年後の2000年に2基解体し、10年、15年の長期に涉る多角的なデータの公表が、本年8月15日に新たなものとして追加実施されました。これらの貴重なデータは世界にも例が無く、日本ののみならず、海外の各団体、政府機関からも注目され高く評価されている。なお残る2基については開始以来20年後の2005年に解体し、これをもって実験は完了と考えている。

○広報に関する活動

当業界では常識と思っている電池に関する知識について、一般消費者も認知して頂いているのかを考えると、まだまだ不足しているのが実状である。電池の正しい使い方、電池の上手な使い方、使用済み電池の処理の仕方などについて、十分な知識を持っていない消費者がおられ、その為に思わぬ事故やクレームになったり、リサイクルできる電池が無駄に廃棄されたりしており、PR不足を痛感している。

そこで広報委員会ではできるだけ多くの消費者に、電池の中味、電池の使い方、廃棄の方法等のPRをする事を重点に活動を展開している。

1)鉛蓄電池については、爆発防止のために液面点検や、早めのバッテリー交換のPRを広報活動の中心にし「交通安全フェア」「自動車点検フェスティバル」「東京モーターショー」の3箇所での展示フェアに参加し啓発活動を行う。また11月初旬より年末までの間「早めのバッテリー交換PRキャンペーンクイズ」を今年も実施する。昨年は10万通超の応募があり、今年もそれを上回る応募が期待される。

2)一次電池については、各地の科学館で「手作り乾電池教室」を7、8月の夏休みに集中して13箇所で実施し、また地方のTVに出演し「電池の

正しい使い方」の啓発活動を6局で展開する。

3) 小形二次電池に関しては、今年もリサイクル協力店を対象に「充電式電池くるくるリサイクルキャンペーン」で一般消費者の回収についての義務の気付きを喚起し、回取りサイクルの啓発を目的に、6月11日～11月11日の間で本年は従来の3倍の魅力ある賞品が、応募者に当たるキャンペーンを実施している。

4) 9月以降のイベント計画として

「2002 NEW環境展」9月初旬 大阪にて実施、「CEATEC JAPAN 2002」10月初旬 千葉幕張、「ウエステック 2002」11月 同じく千葉幕張に参加する。

11月11日～12月12日の電池月間の行事として、11月9日に池袋サンシャインでの「でんちフェスタ」を電池月間のスタートと位置付けて実施し、本年の「プロ野球最優秀バッテリー賞」表彰式は、電池月間のフィナーレとして、12月5日の例年どおり東京プリンスホテルで実施する。更にホームページ、会報誌「でんち」の内容の充実を図り、実効ある広報活動を展開する。

○国際交流に関する活動

電池工業会の会員各社のグローバル展開は、早い時期から積極的に実施しているが、その目的とするところは、かつては円高回避の輸出競争力をつけるものが、現在は商品として信頼性を上げた、各種電池のアジアからの低価格攻勢に、日本市場を守るとの意味合いも加味されたものに変わってきていている。現在業界として電池系別での海外生産拠点進出は70拠点にも達し、ここ3年を見ると中国への進出が急増している。

この様な状況下、①環境問題での2国間に涉る責務の問題、②工業会ベースでの模倣品対策、会員企業での特許・知的財産権の問題、③標準化、安全性、PLに関する国際取り決めへの対応、④出荷統計資料の入手、相互交換、⑤現地工業会内の活動の時期の検討等、これらの課題につ

いて、海外の電池工業会及び関連機関と積極的な討議と、話し合いの場を多く持ち交流を深めたい。具体的な活動として、5月にIEC一次電池専門委員会を東京で実施。6月にEUROBAT総会へ出席(イス)し、先方の会長から来年4月にECO会議を東京で開催と言う提案を受けた。7月にインターナショナル、リサイクル会議へ海外部長を派遣(ワイン)、7月に中国化学物理電源工業協会との第1回責任者会議を実施(北京)、10月に日欧米T WG環境委員会会議を(長野市)で開催する。その他IECでの標準化の活動を含め、海外関連機関との連携強化と具体的課題解決に積極的な取組みをして行きたい。

○業界の出荷実績については平成14年度上半期(1～6月)数量2,921百万個、前年比97%、金額3,178億円で前年比93%であった。中でも小形二次電池は数量で前年比98%、金額では前年比93%と価格の下落が大きく影響している旨の説明があった。

今回の合同会議における講演は、(株)堀場製作所の堀場会長に「問題は経営者だ」と題して1時間30分に渡り有意義な講演をいただいた。



以上、会長並びに専務理事の挨拶、堀場氏の講演を通じ参加者一同は当面の重要課題について更なる理解を深め、電池業界の発展には、正会員と賛助会員両者の協調と情報交換が必要であることを認識し、会議は成功裡に終了した。

業界動向

- ***デルコンピューター PDA** 市場に参入、年内にも独自ブランド品を開発し法人、個人向けに発売のみ通し。
(8月2日付 日経産業)
- ***大同メタル工業** 小型・軽量な燃料電池の応用商品としてハンドライト、学校教材、ミニ自動車を開発、受注活動を開始した。
(8月2日付 日経産業)
- ***計測器センター(大阪)** 開発中の充電池の性能評価試験で使う電気の再利用が出来る「電池サイクル寿命特性試験システム」を開発、大型充電池の研究現場向けに9月から発売を開始。
(8月2日付 日刊工業)
- ***PDA** 日立製作所、NEC、東芝、カシオ計算機等の情報各社は、PDAの個人需要が頭打ちになる中、法人市場の開拓を強化。
(8月3日付 日経)
- ***MD** 2001年のMDプレーヤー／レコーダーの国内出荷台数は3159000台で伸びは、前年比0.7%増と低い伸びにとどまった。尚、シェアを大きく上げたのは松下電器産業。
(8月5日付 日経産業)
- ***ミニ家電** 自分だけの涼を楽しむ、扇風機、冷蔵庫、空気清浄機(タバコ対応)等の小型家電がオフィス、独身者をターゲットに相次ぎ登場中。
(8月6日付 日経)
- ***二次電池** 電動自転車、電動スクーター等、電動車両の市場投入の本格化に伴いモバイル機器向けのニッケル水素、リチウムイオン等、二次電池のこれら用途への採用が急速に広まる見通し。
(8月6日付 化学工業日報)
- ***電気鉛** 電気鉛の国際相場が、経済の先行きの不透明感から弱含みで推移、2年ぶりの安値で反発せず下落が続いている。
(8月6日付 日刊工業)
- ***新盛インダストリーズ** ニッケル水素電池を用いる事で、4時間充電で7,000枚のラベルを印刷できるバーコードプリンターを開発した。(8月8日付 日経産業)
- ***シャープ** 欧州向け輸出の好調さ等により、太陽電池事業を前期比60%以上の500億円に拡大する方針。
(8月8日付 化学工業日報)
- ***電気通信事業者協会(TCA)** 7月末の携帯電話の累計契約数は、前月比0.7%増の71,237,000件になった旨を発表。
(8月9日付 電波)
- ***環境省** 土壤汚染対策法にかかる技術的事項についての考え方の取りまとめ案を発表。
(8月8日付 化学工業日報)
- ***リチウムイオン電池** 2001年度リチウムイオン電池の国内販売量は、1億4,898万個で、前年度に比べ15.1%減少した。
(8月8日付 日経産業)
- ***電子情報技術産業協会(JEITA)** 6月の携帯電話・PHSの国内出荷実績が前年比93.5%の4,086,000台になった事を発表。落ち込み幅が縮小しきている。(8月9日付 電波)
- ***三洋電機** 量産品では世界最高となるエネルギー変換効率18.5%の太陽電池モジュールと発電システムを10月1日から発売する。(8月9日付 日刊工業&化学工業日報)
- ***ユニチカ** 固体高分子型燃料電池用セパレーターの生産コストを従来の1/3程度にした生産方式を開発。
(8月9日付 日経産業)
- ***江蘇省政府** 中国江蘇省政府が主催、蘇州市が開催する第一回蘇州電子情報博覧会を10月15日～18日で開催する旨を発表。(8月13日付 電波)
- ***ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ** 携帯電話の営業を中国で開始した事を発表した。
(8月13日付 日経産業)
- ***コバルト** コバルトの国際価格が続落、15年ぶりの安値になる。二次電池向け需要は堅調だが、航空機のエンジン部材向けの需要が落ち込み需給緩和したのが原因。
(8月14日付 日経産業)
- ***環境省** 2003年1月に施行の土壤汚染対策法に基づく政省令案をまとめた。この中で指定調査機関については、技術能力の基準として、3年以上の実務経験者の必要性をうたっている。
(8月14日付 日刊工業)
- ***荏原** 2003年春に据置型では国内初の量産型燃料電池を発売へ。水素はボンベで供給する為、燃料配管なしでも長時間の電力供給が可能で非常用電源等に販売する。
(8月14日付 日経)
- ***三洋電機ソフトエナジーカンパニー** 淡路島に技術、営業の集約を加速、海外二次電池メーカーの追い上げを振り切り、当該電池で世界一のシェアを確保へ。(8月13日付 日経産業)
- ***東邦亜鉛** 鉛精錬でリサイクル原料の採用を拡大する。前年度は全体の3割であった廃バッテリーからの鉛原料を、2002年度は5割程度に引き上げる。
(8月16日付 日経産業)
- ***日本電池** 村上社長、ブロードバンド時代を支えるより小形・高容量の電池開発に注力したい、自動車用蓄電池の中国生産を増やし国内では在庫ゼロを目指したい等を語る。
(8月16日付 読売)
- ***産業環境管理協会** 製品の生産、流通、廃棄にいたるまでの各段階での環境負荷を定量化して表示する環境ラベルタイプIII『エコリーフ』が動き出す。
(8月16日付 日刊工業)
- ***欧洲環境規制** 欧州連合(EU)で自動車や電機メーカーに製品リサイクル等の環境対策を義務付ける『EU指令』が相次いで成立している。(8月16日付 日経)
- ***太陽電池メーカー** 太陽電池メーカー5社の2003年の国内生産量が、輸出を中心に2001年実績比で倍増の見通しになった。
(8月17日付 日経)
- ***東京工業大学大学院理工学研究科** リチウム電池の負極に利用中の黒鉛をアルミニウムで表面修飾する事で高出力、高容量になる事を見いだした。
(8月19日付 化学工業日報)
- ***IA(インフォメーション／インターネット・アプライアンス)** 新しい情報機器“IA”的代表製品として、PDAの個人、企業の両市場での拡販が期待されている。(8月22日付 電波)

平成14年9月度の電池工業会活動概要

部会	9月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議その他	4日～7日	2002NEW環境展(インテックス大阪)	*電池の再資源化、電池の中味と用途等の啓蒙
	5日(木)	ハンドブック編集委員会	*家電製品協会のハンドブック編集
	11日(水)	広報でんちフェスタWG	*でんちフェスタ準備検討
	13日(金)	正賛合同会議	*会長挨拶、専務理事の工業会活動報告、講演会等
	17日(火)	広報でんちフェスタWG	*未来電池アイデアコンテストの一次審査
	19日(木)	ハンドブック編集委員会	*家電製品協会のハンドブック編集
	20日(金)	ハンドブック編集委員会	*家電製品協会のハンドブック編集
	25日(水)	広報二次電池WG	*イベント・展示会準備確認
二次電池部会	25日(水)	広報委員会	*各種WG活動内容報告と今後の計画検討
	3日(火)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	3日(火)	産業用電池新リサイクルスキーム説明会	*リサイクラー代表5社に対する新リサイクルスキームの説明
	5日(木)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車用電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	6日(金)	用語分科会	*SBA「規格票作成マニュアル」制定案
	6日(金)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車用電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	9日(月)	産業用電池小委員会	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	10日(火)	資材委員会	*自動車、産業用電池新リサイクルスキーム審議
小形二次電池部会	10日(火)	小形鉛分科会	*SBA「安全・取扱い指針」改正案の技術委員会指摘事項
	11日(水)	PL委員会	*パンフレット内容検討、各種イベント要員選出
	11日(水)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車用電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	11日(水)	自動車用電池委員会	*自動車用電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム審議
	11日(水)	電気車用電池小委員会	*電気車用電池リサイクルスキーム検討
	12日(木)	小形シール鉛分科会	*小形シール鉛電池の回収率算出方法等の確認
	12日(木)	自動車鉛分科会	*SBA「安全・技術指針」の改正案。来年度審議のJISの改正方針
	13日(金)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局・分科会合同	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
一次電池部会	13日(金)	(自)技術サービス小委員会	*全整連より依頼の電気装置整備テキスト改正案
	17日(火)	電気車鉛分科会	*電槽の材料表示方法を決定。産業用電池リサイクルの説明会
	18日(水)	据置鉛分科会	**SBA「制御弁式電池の技術指針」改正案の技術委員会指摘事項
	19日(木)	据置アルカリ分科会	*JIS「シール形蓄電池」改正案の技術委員会指摘への対応結果
	20日(金)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	24日(火)	資材小委員会	*共用金型、共通部品の検討
	25日(水)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車用電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	26日(木)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車用電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
小形二次電池部会	26日(木)	二次電池技術委員会	*JIS1件、SBA2件の審議。指摘事項は後日書面で審議
	27日(金)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	27日(金)	産業用新リサイクルスキーム説明会	*リサイクラー代表5社に対する新リサイクルスキーム第2回説明
	28日(金)	EV鉛分科会	*SBA「技術報告」見直しの必要性について。IECの状況
	28日(金)	HEV用電池分科会	*JAVA規格「HEV用電池寿命試験方法」制定案。技術調査報告
	28日(金)	EV用電池委員会	*JAVA規格「HEV用電池の試験方法」最終案3件の審議。
	29日(土)	EV用電池合同委員会	*EV用電池委員会及び関連分科会の活動結果と今後の方針
	3日(火)	第3回リユース対応WG会議	*9月部会への方針案報告に係わる資料整備等最終まとめ
一次電池部会	4日～5日(木)	工場環境委員会	*土壤汚染対策法の検討及び野村興産イトムカ鉱業所見学
	6日(金)	第5回BAJ-TWG準備委員会	*日本の発表テーマに関し、内容の吟味と発表リハーサル
	9日(月)	PL委員会	*リユース対応の取り組み状況及び14年度の活動実行の確認
	11日(水)	アルカリ分科会	*回収電池調査結果のまとめ、回収率算定方法の検討など
	11日(水)	安全性ガイドライン策定WG	*IEEE新規提案、PRBA対応進捗確認。ガイドライン内容審議
	12日(木)	小形シール鉛分科会	
	17日(火)	小形二次電池部会	*リチウムイオン電池の輸送規制、リユースに関する件の審議
	18日(水)	リチウム2次分科会	*IEC規格(統合安全規格、統合機械試験、統合組電池ガイド)CDV、FDIS、DTR文書の審議計画確認。15年度公募JISの検討
小形二次電池部会	19日(木)	国連対応委員会	*IATA バッテリー・セミナーの結果報告及び国交省要請の案件対応
	20日(金)	海外環境委員会	*欧州規制法の問題点の整理及びTWG準備状況の報告
	20日(金)	新種電池研究会	*活動内容・情報等の意見交換
	25日(水)	業務委員会	*小形二次電池の8月度出荷実績、回収率算定用統計の検討等
	26日(木)	リチウムイオン分科会	*回収率算定方法の検討等
	27日(金)	再資源化委員会	*小形二次電池の回収率算定用統計の検討等
	19日(木)	器具技術ワーキング	*規格の見直し(継続)と電池室等の安全設計ガイドラインの見直し
	20日(金)	PL委員会	*乾電池充電器クレーム等への対応方策の決定
一次電池部会	25日(水)	JIS小委員会	*JIS C 8501(マンガン乾電池)改正案の審議
	25日(水)	IEC小委員会	*試験時間公差提案の審議、安全性規格の整合化審議
	25日(水)	IEC/リチウムWG	*リチウム輸送安全性規格 CDV文書審議計画確認
	26日(木)	業務委員会	*販売予測の纏め、海外製乾電池の分析内容の確認等

講習修了考査合格者

蓄電池設備整備資格者

愛知・岩手会場分

電池工業会は、8月28・29日愛知県、9月10・11日岩手県で開催した、蓄電池設備整備資格者講習の修了考査に合格した者の氏名を発表した。

合格者(合格率)は、愛知県83名(94.3%)、岩手県32名(91.4%)であり。合格通知は直接本人に通知される。

<愛知県>

北田峰雄、竹内和良、田村嘉浩、出永広一郎、岡崎 豊、鈴木繁雄、栗本 勇、後藤智成、中澤 寛、近藤正意、木村 真、加藤久雄、西川 孝、早川英孝、西村正幸、菊池浩一、川村考弘、伊東秀政、大脇貴仁、森田大督、千村 功、西口浩司、西口安生、佐脇 寛、梅田 聰、山田秀一、大木秀章、手島史綱、中村康成、宮浦章汎、田中用一、岩邊治延、江口壮一、森 繁、青木和夫、宮本啓幸、河合 学、西村浩昭、田村高之、田波孝志、沖本裕之、澤部正年、森本直樹、落合利至、堀田知裕、安井久敏、勝野 仁、榎原清彰、田畠伸輔、青木仁司、酒井徳之、池村誠俊、長谷川 誠、酒井 悟、中嶋利道、高橋伸介、菅沼孝之、依田静雄、野瀬友季夫、石川泰三、日比野 力、早川 實、五反田信治、園屋 茂、安田吉孝、山本 剛、西川和伸、岡本直樹、田原隆次、中尾将孝、柏原良治、宮崎達夫、土井秀紀、林 政志、勝野正臣、遠松俊広、下村 剛、西下剛弘、門口好男、角谷博昭、打田育央、池田憲美、森 清史。

<岩手県>

盛永英雄、菊地清志、齊藤正人、田中克佳、佐藤裕昭、小松光栄、高桑昌和、佐々木 均、山田晋也、山下貴己、松倉弘樹、田村秀敏、佐藤光正、坂本憲敬、鈴木利昭、伊藤史朗、大西俊輔、井潟邦忠、岩渕昭則、鈴木和男、丹内康弘、千葉 博、千葉小雪、根本健司、菅野篤志、山形 望、上田賢治、佐藤 昭、小野寺英貴、則竹賢治、渡部 繁、伊藤 興。

新製品ニュース

「充電式ニッケル水素電池 2100」 「ニッケル水素／ニカド急速充電器 Digi Charge シリーズ」 新発売のご案内

この度弊社(社長:小松 治夫)では、従来品より約24%容量アップした「充電式ニッケル水素電池2100」(単3形)と同電池に対応した「ニッケル水素／ニカド急速充電器 Digi Charge」(単3・単4形兼用)及び、充電式ニッケル水素電池2100(単3形)を4本と充電器をセットした「ニッケル水素／ニカド急速充電器 Digi Charge340セット」を発売することになりましたのでご案内いたします。

この機会に、お取り扱いご拡販くださいますようお願い申し上げます。

[特長]

(1)電池

●最高容量を実現

当社従来品に比べ約24%の高容量化。定格容量2000mAh、公称容量2100mAhにより、大電流・高容量を必要とするデジタルモバイル機器などに最適なパフォーマンスを発揮します。

(2)充電器

●最速の充電機能

ニッケル水素電池2100で、2本では約105分と最速の急速充電を実現しました。4本では、約230分で充電いたします。

●充電エラーと過充電を防止

新開発のマイコンVer.2.0を搭載することで、充電エラーと過充電を高精度に防止します。

●国内・海外どちらでも使用可能

オートボルテージ機能により、100~240Vまで対応。海外でもそのまま問題なく使用することができます。



.....新製品ニュース.....

業界最高※1の、常温で10A、マイナス10℃でも4Aのハイレート放電実現

単3形 ハイパワー用ニッケル水素電池を開発

汎用サイズでハイパワー機器への用途拡大

松下電池工業(社長:石田 徹)は、常温使用でも、マイナス10℃の低温使用においても業界最高のハイレート放電特性を持つ単3形ハイパワー用ニッケル水素電池を開発し、2003年4月より量産を開始します。

従来はパワー用のニッケル水素電池は単2形サイズより少し小さいサブC形が最小サイズでした。今回、機構部品の改善及び、新処方の負極を採用することにより、単3形の本製品が可能になったものです。単3形はサブC形に比較し体積、重量でほぼ半分であり、電動工具を始め、掃除機等のダウンサイ징が可能になります。

また、その優れた常温・低温ハイパワー特性は、幅広い温度環境において、プロ用一眼レフデジタルカメラ、プロ用トランシーバーなどの使用を可能にしました。

趣味の世界でも、例えばパワーの要求されるラジコン飛行機において電源部分の小型・軽量化によりアクロバット飛行などの機器性能アップなどが期待できるなど、新規市場を幅広く創出できるものと考えています。

[特長]

1. 単3形ニッケル水素電池で業界最高の10Aのハイレート放電を実現

- ・電動工具の更なる小型化には、電池の小型化が必要になります。しかし電動工具を実用的に駆動するためには10Aのハイレート放電能力が最低必要であり、サブC以下の中では無理だと思われていました。本製品は今回業界で初めて単3形サイズでこの壁を乗り越え、ダウンサイ징の促進を可能にしました。
- ・また、10Aの放電特性は例えばプロ用一眼レフデジタルカメラにおいて、必要なパルス放電をカバーするのみならず、外部ストップボを併用しての高速連写において威力を發揮します。
- ・更に単3形は一般的なサイズであり、OEMにおいても、将来的には市販においても、増大しつつある様々なハイパワー機器市場での使用に、汎用性を大きく高めました。

2. 低温(マイナス10℃)でも業界最高の4Aのハイレート放電可能



単3形ハイパワーニッケル水素電池

7月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成14年7月)

単位:数量=千個、金額=百万円(本年よりマンガン乾電池の単二がその他に含まれました)

	單 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	567,978	60,921	106%	100%	3,493,924	387,409	98%	94%
全電池合計	566,939	59,504	106%	100%	3,487,683	377,257	98%	94%
一次電池計	424,981	15,493	109%	106%	2,552,210	90,462	99%	99%
マンガン乾電池計	96,369	2,020	115%	102%	624,404	12,428	96%	92%
单一	11,519	612	109%	106%	66,588	3,451	96%	94%
単三	47,202	726	98%	90%	329,539	4,892	92%	86%
その他	37,648	682	148%	114%	228,277	4,085	103%	99%
アルカリ乾電池計	127,781	7,072	98%	97%	720,727	39,023	93%	91%
単三	78,426	3,501	98%	90%	456,154	21,122	91%	86%
単四	29,196	1,388	88%	79%	153,410	7,524	88%	82%
その他	20,159	2,183	111%	136%	111,163	10,377	110%	116%
酸化銀電池	88,144	951	99%	92%	558,654	6,218	98%	98%
リチウム電池	105,881	5,128	127%	125%	605,527	30,770	106%	112%
その他の乾電池	6,806	322	204%	191%	42,898	2,023	156%	162%
二次電池計	141,958	44,011	99%	98%	935,473	286,795	98%	93%
鉛電池計	3,588	11,516	96%	92%	23,141	76,199	92%	90%
自動車用	2,233	7,157	103%	96%	12,923	41,561	99%	94%
二輪用	383	748	97%	97%	2,689	5,160	89%	94%
小形シール	764	870	80%	87%	5,986	6,163	82%	83%
その他	208	2,741	91%	83%	1,543	23,315	88%	85%
アルカリ電池計	90,672	10,966	89%	95%	616,022	73,814	91%	91%
完全密閉式	47,977	5,700	89%	103%	291,623	33,452	94%	99%
ニッケル水素	42,666	4,935	89%	86%	324,210	37,832	88%	84%
その他のアルカリ電池	29	331	207%	106%	189	2,530	180%	112%
リチウムイオン電池	47,698	21,529	125%	104%	296,310	136,782	118%	96%
器具計	1,039	1,417	90%	83%	6,241	10,152	98%	93%
携帯電灯	593	588	82%	83%	3,348	3,384	98%	96%
電池器具	446	829	103%	82%	2,893	6,768	99%	91%

7月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成14年7月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少數以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	單 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸出)	296,230	28,479	120%	104%	1,902,485	195,099	102%	95%
一次電池計	178,527	4,262	131%	136%	1,089,880	23,418	98%	99%
マンガン	62,462	993	153%	246%	356,519	3,407	106%	124%
アルカリ	20,464	457	102%	112%	104,649	2,072	66%	74%
酸化銀	26,965	335	100%	94%	231,044	2,828	96%	94%
リチウム	66,535	2,426	142%	126%	381,418	14,637	106%	101%
空気亜鉛	1,900	36	150%	140%	14,400	295	117%	129%
その他の一次	200	14	81%	75%	1,852	178	30%	57%
二次電池計	117,703	24,216	107%	99%	812,604	171,682	109%	95%
鉛蓄電池	355	641	69%	72%	2,805	4,964	69%	75%
ニカド	39,886	3,519	90%	93%	244,523	22,596	101%	102%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	51	17	23%	60%
ニッケル水素	32,698	3,363	97%	93%	246,367	24,417	89%	72%
リチウムイオン	35,057	15,138	143%	108%	244,505	105,899	136%	102%
その他の二次	9,706	1,556	132%	74%	74,353	13,789	162%	97%
全電池合計(輸入)	43,795	3,853	136%	109%	294,783	26,202	114%	105%
一次電池計	40,198	1,332	135%	99%	273,595	9,139	119%	123%
マンガン	8,286	108	102%	96%	61,523	878	91%	91%
アルカリ	29,050	523	150%	123%	187,885	3,918	127%	127%
酸化銀	127	3	30%	31%	2,420	50	111%	93%
リチウム	1,440	60	176%	88%	11,382	874	177%	126%
空気亜鉛	291	11	78%	80%	2,184	92	117%	113%
その他の一次	1,005	628	177%	88%	8,200	3,326	209%	129%
二次電池計	3,596	2,520	142%	115%	21,188	17,063	75%	97%
鉛蓄電池	530	1,222	125%	95%	3,319	8,672	104%	101%
ニカド	1,031	398	96%	114%	8,527	2,804	110%	100%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	3	7	42%	32%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	2,035	900	197%	163%	9,339	5,581	53%	90%